



CATALYSTファミリー

CATALYST 200

CATALYST 100

CATALYST 60

パイロット・ガイド ▶

CATALYST比較チャート

特徴	CATALYST 200	CATALYST 100	CATALYST 60
アンプワット数	200W	100W	60W
パワーダンピング	フルパワー、ハーフパワー、0.5W、Mute	フルパワー、ハーフパワー、0.5W、Mute	フルパワー、ハーフパワー、0.5W、Mute
スピーカー	2x12インチ・カスタム・ボイス	1x12インチ・カスタム・ボイス	1x12インチ・カスタム・ボイス
チャンネル数	2	2	2
アンプ・ボイシング	6	6	6
楽器入力	1x 6.3mm	1x 6.3mm	1x 6.3mm
EQ	3バンド	3バンド	3バンド
コントロール	Boost, Gain, Presence, Channel Volume, Master Volume	Boost, Gain, Presence, Channel Volume, Master Volume	Boost, Gain, Presence, Channel Volume, Master Volume
デジタル・リバーブ	6タイプ	6タイプ	6タイプ
デジタル・エフェクト	各Delay, ModulationおよびPitch/Filterタイプ用に6エフェクト	各Delay, ModulationおよびPitch/Filterタイプ用に6エフェクト	各Delay, ModulationおよびPitch/Filterタイプ用に6エフェクト
Tap Tempo	はい	はい	はい
チューナー	はい	はい	はい
エフェクト・ループ	はい	はい	はい
AUX IN	3.5mm	3.5mm	3.5mm
ヘッドフォン出力	6.3mm	6.3mm	6.3mm
ダイレクト出力	XLRグラウンドリフト付き	XLRグラウンドリフト付き	XLRグラウンドリフト付き
USBオーディオ・インターフェース	4-イン/4-アウト	4-イン/4-アウト	4-イン/4-アウト
パワーアンプ入力	6.3mm (FX LOOP RETURN経由)	6.3mm (FX LOOP RETURN経由)	6.3mm (FX LOOP RETURN経由)
MIDI	5ピンDINまたはUSB	5ピンDINまたはUSB	USB
ソフトウェア	CATALYST Edit - リモート・ソフトウェア・エディター (PC, Mac, iOS, Android)		
質量	18.9kg	14.5kg	11.8kg
寸法	488 x 694 x 262mm	488 x 564 x 262mm	444 x 503 x 262mm
アクセサリ (別売り)	LFS2フットスイッチ (チャンネルA/B、エフェクト・オン/オフ)		
	CATALYST 200カバー	CATALYST 100カバー	CATALYST 60カバー

概要

Line 6® CATALYST™ファミリー・パイロットガイドへようこそ！本書には CATALYSTアンプの特徴と機能が記載されています。CATALYSTアンプ・ファミリーは、きらびやかなクリーンな音色からディストーションを効かせたハイゲインまで、6つのLine 6オリジナル・アンプ・デザインを提供するため、ギターリストにとっては様々な用途で独自の音作りが可能になります。おなじみの2チャンネルのコントロール・パネルのレイアウトとアナログ・スタイルのコントロールを備えたCATALYSTアンプを使用することで、数秒で素晴らしいサウンドをダイヤルアップできます。CATALYSTアンプには、24のオンボード・エフェクト、エフェクト・ループ、パワーアンプ入力、パワーレベル・コントロール、XLR出力、更には詳細な編集や録音のためのUSB接続も備わっています。

特徴：

- きらびやかでクリーンな音色から最も高いハイゲインまで、カスタムメイドのブースト・コントロールを備えた6つのLine 6オリジナル・デザイン・アンプ・ボイスिंग。
- 2チャンネルの6つのバンク、合計12のメモリーロケーション。
- 6つの高品質のカスタムキュレートされたリバーブ。
- 6つのカスタム・ディレイ・エフェクト。
- 6つのモジュレーション・エフェクト。
- 6つのピッチシフトとフィルター・エフェクト。
- Power Amp In機能を使用することにより、外部エフェクトペダル、ペダルボード、またはアンプおよびエフェクト・プロセッサー (Line 6 Helix®、HX Stomp™またはPOD Go®など) をパワーアンプに直接接続し、モデリングを最もクリーンに増幅させることができます。
- PAミキサーまたは録音デバイスに接続するためのキャビネット・エミュレーションを備えたXLR直接出力。
- 録音および編集のためのUSBオーディオ・インターフェース。
- 外部エフェクトで使用するためのFX LOOP。
- 外部MIDIコントローラー・デバイスで使用するためのMIDI IN端子 (CATALYST 100および200のみ。全てのCATALYSTモデルは、USBを介してMIDI INを提供することに注意してください。)
- ヘッドフォン出力端子。

- 他のオーディオソース用の3.5mm AUX入力。
- オプションのLine 6 LFS2™フットスイッチ (別売り) を使用してアンプ・チャンネルおよびコントロール・エフェクトを変更します。
- カスタムデザイン of Line 6 アンプカバー (別売り) で大切な機器を保護してください。

同梱品： CATALYST™アンプ、アンプトッパー・チートシート・ガイド、IECパワーケーブルとパイロットガイド。

CATALYST Editアプリケーション

macOSおよびWindows®コンピュータ、iOSおよびAndroidモバイル・デバイスのための無償のCATALYST Editソフトウェアが用意されています。CATALYST Editを使用することで、アンプのノブの設定、エフェクトなどを含むアンプボイスिंगを編集、バックアップ、復元、管理が可能になります。

macOSとWindowsコンピュータについて： line6.com/softwareへアクセスし、CATALYST Editインストーラーをダウンロードした後、ダウンロードしたファイルをダブルクリックして画面の指示に従います。

iOSモバイル・デバイスについて： Apple App Storeへアクセスし、画面に表示されたインストールについての指示に従います。*

Androidモバイル・デバイスについて： Google Play Storeへアクセスし、画面に表示されたインストールについての指示に従います。*

*USB-Cポートを備えたiOSおよびAndroidデバイスの場合、USB-BからUSB-Cへのアダプターが必要です。サポートされている他のすべてのiOSデバイスについては、USB-AからLightningへのアダプターが必要です。他のすべてのAndroidデバイスの場合、USB OTG (On-The-Go)アダプターが必要です。すべてのアダプターは別売りです。詳細はline6.com/androidをご覧ください。

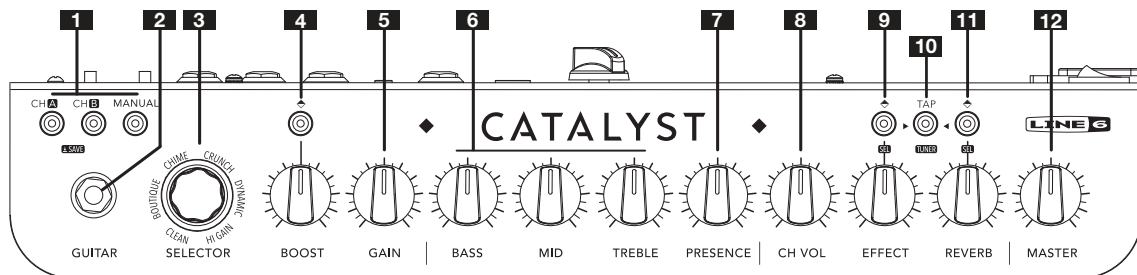


ヒント customtone.comでは、追加のトーンをダウンロードしてCATALYSTに加えたり、独自のトーンをアップロードして共有したりもできます。

CATALYST Editソフトウェア動作条件： Windows 7または10、MacOS 10.14以降、iOS 12.1以降またはAndroid™ OS 6.0以降。

Windowsコンピュータを使用するにあたり、最適なUSBオーディオ・パフォーマンスを得たい場合は、line6.com/softwareから無償のLine 6 CATALYST ASIOドライバーをダウンロードしてインストールします。

トップパネルのコントロール



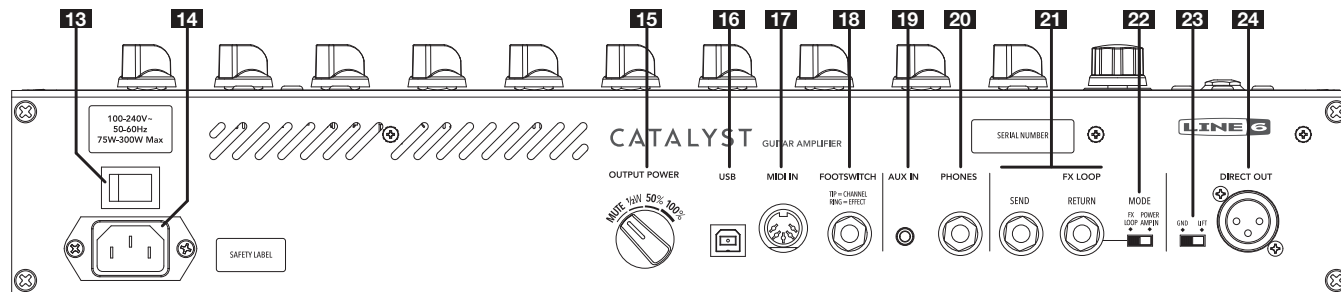
- 1. チャンネルの選択** – CH AまたはCH Bボタンを押して、設定するチャンネルを選択します。
 - 必要に応じて、MANUALを押してマニュアル・モードに入り、従来のアンプのノブのように使用することも可能です。
 - アンプのノブの設定やエフェクトなど、必要な変更を加えてから変更内容を保存します。[8ページ「方法」](#)参照。
- 2. GUITAR入力** – ここにギターを接続します。
- 3. SELECTOR** – このエンコーダー・ノブを使用して、Line 6オリジナル・アンプ・デザイン・ボイシングから選択します。

アンプ・タイプ	ボイシング・ネーム	詳細
Clean	CLARITY	クランクしても不変のクリーンな音色
Boutique	ARISTOCRAT	象徴的な手作りのトーンからインスピレーションを受けた音色
Chime	CARILLON	クラシックなチャイム、大きさ、深みが増しているのみ
Crunch	VOLTAGE	ブリティッシュ・アクセントの付いたクランチャーな音色
Dynamic	KINETIC	タッチ・レスレスポンスの高い、ミッドゲイン・トーン
Hi Gain	OBLIVION	低音の伸びが良い、現代多岐なハイゲイン

- 4. BOOSTスイッチ/ノブ** – このスイッチを押してBoost機能を有効/無効にします。この機能は各アンプ・ボイシングにあらかじめ組み込まれており、優れたサウンドに最適化されています。ノブを使用してBoostレベルを調節します。
- 5. GAIN** – トーンにどの程度のディストーションを生じさせるかを設定します。

- 6. BASS, MID, TREBLE** – 保存する各サウンドの全体的なEQを調節することができます。Manualモードの場合、これらのノブは従来のアンプのノブと同様に動作します。
- 7. PRESENCE** – チューブアンプによく見られるように、これにより特定の高めの中域と高音域の周波数がブーストされ、ミックス内でトーンの「存在感」がより鮮明になります。
- 8. CH VOL** – サウンドのチャンネル音量をコントロールします。これが、サウンドの音量レベルを調整および一致させる基本的な方法です。
- 9. EFFECTスイッチ&ノブ** – このボタンを押すと、個々のエフェクトタイプ (Delay, Modulation, Pitch/Filter) がスクロールします。もう一度押すと、エフェクトがオフになります。[8ページ「方法」](#)参照。エフェクトがオンになると、このノブにより「ウエット」エフェクト・レベルが信号にブレンドされます。
- 10. TAP/TUNERボタン** – 音楽に合わせてこのボタンをタップすることで、ディレイのテンポとモジュレーション・エフェクトを設定します。長押ししてチューナーにアクセスします。終了するときは、もう一度押します。
- 11. REVERBスイッチ&ノブ** – 押すとオンボード・デジタル・リバーブがオンになります。[9ページ「リバーブをバイパスする/有効にする」](#)参照。有効にすると、ノブでアンビエンスの量を調節し、トーンの空間的な広がり、臨場感をコントロールすることができます。
- 12. MASTER** – アンプの全体的な音量に加え、ヘッドフォン出力 (使用している場合) もコントロールします。

リアパネルの接続



13. **電源スイッチ** – アンプのオン/オフを切り替えます。
 14. **AC IN** – 同梱の電源ケーブルをここに接続します。電気情報については、リアパネルに記載されている表示をご覧ください。
 15. **OUTPUT POWER** – パワーアンプの全体の出力レベルをコントロールします。以下の4つから選択します： MUTE (録音/ヘッドフォン使用時)、1/2W (0.5W)、50% (ハーフパワー)、100% (フルパワー)。
 16. **USB** – macOSまたはWindowsコンピュータ、iOSまたはAndroidモバイルデバイス*を接続してトーンの編集、アップデート、オーディオの再生と録音を行います。このクラス準拠のUSB-Bポートは、4チャンネル・オーディオを24ビット深度と44.1kHzまたは48kHzサンプルレートで提供します。
- 注記:** ソフトウェアおよびアダプター・ケーブルの要件については、[3ページ](#)、「[CATALYST Editアプリケーション](#)」を参照してください。
17. **MIDI IN** – 外部MIDIコントローラー・デバイスをこの5ピンDINコネクタに接続して、メモリーの選択、パラメーターのコントロールなどを行います (Catalyst 100/200で利用可能)。10ページ「[CATALYSTでMIDIコントローラーを使用する](#)」参照。
 18. **FOOTSWITCH** – 必要に応じて、ここにLine 6 LFS2 2 ボタンフットスイッチを接続すると、A/Bチャンネルの切り替えおよびエフェクトのオン/オフの切り替えが可能になります。
 19. **AUX IN** – MP3プレーヤーまたはその他のオーディオソースを使用し、直接 (未処理のまま) アンプのスピーカーへ送るための補助オーディオ入力。

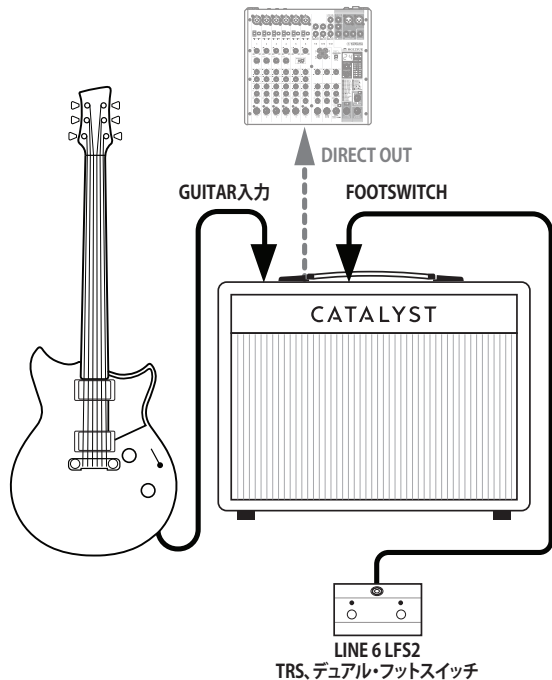
20. **PHONES** – ここにヘッドフォンを接続します。トップパネルのMASTERは、ヘッドフォンの音量レベルをコントロールします。音を出さずに練習して録音したい場合などは、OUTPUT POWERを「MUTE」に設定します。ミュートにした場合でもDIRECT OUTソケットはアクティブなままです。

! 聴覚器官への損傷を防ぐため、ヘッドフォンを接続する前に、必ずMASTERを完全に下げてください。

21. **FX LOOP** – 標準の6.3mmインストゥルメント・ケーブルを使用して外部エフェクトに接続します。SENDをエフェクトの入力に接続し、RETURNをエフェクトの出力に接続します。
22. **MODEスイッチ** – エフェクト・ループRETURNの状態をコントロールします。左に切り替えると、エフェクト・ループが有効になります (上記のとおり)。右に切り替えると、POWER AMP IN機能が有効となり、リターン信号を直接パワーアンプへ送信します。この機能は、外部エフェクト・プロセッサやペダルを使用する際に大変便利です。
23. **GND-LIFT** – XLRDIRECT OUTPUT用のグラウンド・リフト・スイッチ。
24. **DIRECT OUT** – XLRケーブルを接続してオーディオをPA、ミキサーやオーディオ・インターフェースへルーティングさせます。DIRECT OUTの出力レベルはライン・レベルに固定されています (MASTERノブによる影響はありません)。AUX IN信号はDIRECT OUTへルーティングされないことに注意してください。

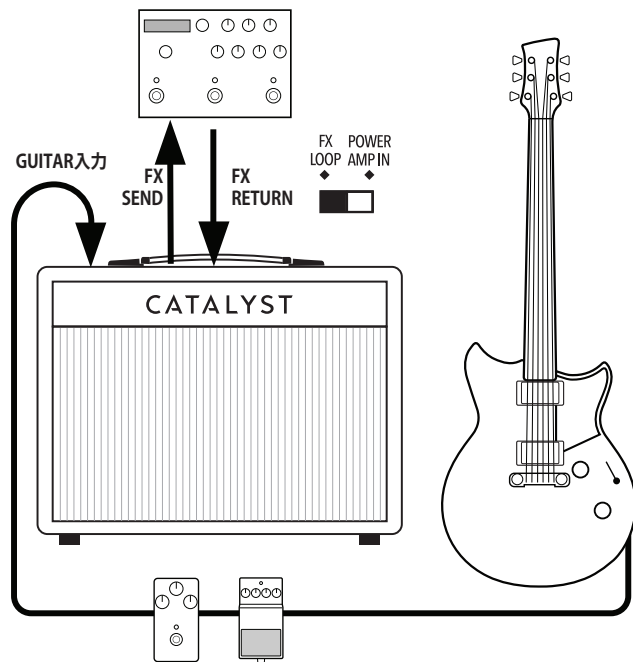
標準的な接続

Line 6 LFS2フットスイッチ (別売り) またはその他の互換性のあるラッチング・フットスイッチをFOOTSWITCH端子に接続します。標準の「ラッチング」タイプのデュアル・フットスイッチは、チャンネル選択 (A/B) とエフェクトのオン/オフをコントロールします。現在のメモリー内に保存されているエフェクトはフットスイッチを介してアクセスされることに注意してください。



エフェクトペダルの接続

アンプの前にペダルを配置し、エフェクト・ユニットをCATALYSTのエフェクト・ループ内に接続する一般的なセットアップ。MODEスイッチはFX LOOPに設定します。

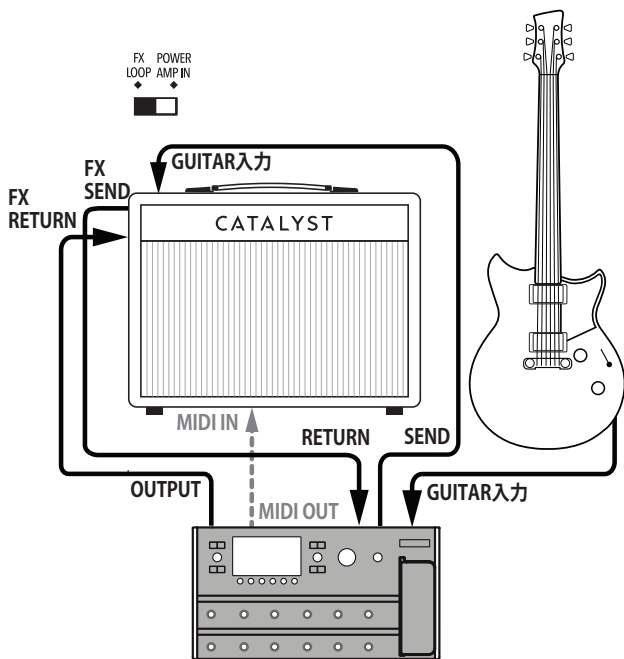


注記: 必要に応じて、6.3mmTRSスプリッター・アダプターを使用することで、2つのフットスイッチを個々にFOOTSWITCH端子に接続することができます。モーメンタリータイプのフットスイッチは、CATALYST Editソフトウェアを介してCATALYSTで動作するように割り当てることができます。

モデラーの接続

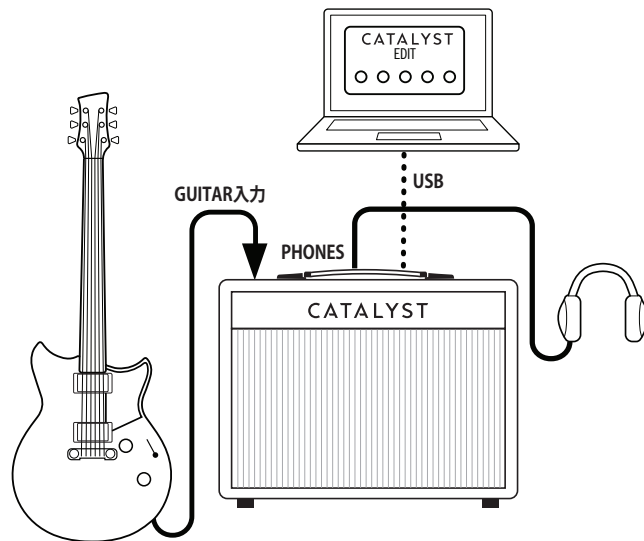
Line 6 Helix, HX Stomp, POD Goデバイスなどのアンプ/マルチエフェクトモデラーを使用する場合は、4ケーブル方式を使用するのが最も機能的です。

- ・ギターをモデラーのGUITAR INに接続します。
- ・モデラーのSENDをCATALYSTのGUITAR INに接続します。
- ・CATALYSTのSENDをモデラーのRETURNに接続します。
- ・モデラーのOUTPUTをCATALYSTのRETURNに接続します。
- ・CATALYSTのMODEスイッチをFX LOOPに設定します。
- ・オプションで、モデラーのMIDI OUTをCATALYSTのMIDI INに接続して、パラメーターを制御します。(10ページ)。



コンピュータの接続

コンピュータ(またはモバイル・デバイス)をCATALYSTのUSBポートに接続し、CATALYST Editでトーンの編集、好きな音楽とのジャミング、またはDAWアプリケーションでの録音を行います。必要に応じて、ヘッドフォンを接続して「音を出さず」演奏や録音を行うことができます。



CATALYST Editソフトウェアを使用することで、以下のように、フットスイッチのコントロールに割り当てるSW2 (EFFECT)を(グローバルなシステム全体のパラメーターとして)選択することができます。

- ・ EFFECTバイパス (デフォルト)
- ・ BOOST & EFFECT
- ・ REVERBバイパス
- ・ BOOST & REVERB
- ・ BOOSTバイパス
- ・ TAP TEMPO
- ・ EFFECT & REVERB

方法:

メモリーの選択

1. 任意のCHボタン (A、BまたはMANUAL) を押せばいつでもアンプ・チャンネルに戻ることができます。
2. SELECTORノブを回してアンプ・ボイスिंगを切り替えます。

サウンドを保存する

1. サウンドに変更を加えた後、CH AまたはBを長押しするだけで編集した内容を保存することができます。
2. ボタンを約2秒間押し続けると、フロントパネルのチャンネルLEDが点滅し、保存が完了すると点灯に変わります。

バンクを変更する

CATALYSTアンプは、フロントパネルからアクセス可能な、チャンネルメモリーのバンクを6つ備えています。各バンクにチャンネルAとチャンネルBの場所が含まれています。

1. MANUALボタンを押したままSELECTORエンコーダーを使用して、チャンネル選択の6つのバンクをスクロールします。
2. 選択したバンク内でのみ、チャンネルの設定を保存することができます。
3. 必要な場合は、CATALYST Editソフトウェアを使用して12メモリーのいずれかの場所に設定を保存することができます。

エフェクトをバイパスする／有効にする

1. EFFECTボタンを押してエフェクトを有効にします。Delay、ModulationとPitch/Filterのエフェクト・タイプの変更については、ステップ4を参照してください。
2. エフェクト・タイプはカラーLED (Delay=緑、Modulation=青、Pitch/Filter=紫) で示されます。
3. EFFECTボタンを再び押してエフェクト・タイプを選択します。



ヒント CATALYST Editソフトウェアを使用することで、エフェクトのパラメーターを詳細に編集し、ディレイ・タイム、ピッチシフトの量などをコントロールすることができます。

4. EFFECTボタンを約2秒間長押ししてエフェクト選択モードに入ります。SELECTORエンコーダーのLEDリングが薄暗くなり、与えられたカテゴリー内の6つの異なるエフェクトをSELECTORでスクロールできるようになります。EFFECTを再び押してそのエフェクトを使用します。

EFFECTタイプを変更する場合は、EFFECTボタンを約2秒間長押しします。SELECTORの点灯が薄暗くなります。ボタンから手を放し、TAPボタンを使用して3つのエフェクト・タイプをスクロールします (Delay、ModulationとPitch/Filter)。EFFECTボタンを再び押すと選択モードが終了します。CH AまたはCH Bを長押しして、そのメモリーに対して行った設定を忘れずに保存してください。

DELAY	
モデル	ベースとしたもの*
Simple Delay	Line 6オリジナル
Vintage Digital	Line 6オリジナル
Transistor Tape Echo	Maestro® Echoplex EP-3
Adriatic Delay	Line 6オリジナル
Dual Delay	Line 6オリジナル
Dynamic "Ducking" Delay	Line 6オリジナル

MODULATION	
モデル	ベースとしたもの*
PlastiChorus	Arion ACH-Z Chorus
Opto Trem	Fender® Optical Tremolo
Script Mod Phaser	MXR® Phase 90
Gray Flanger	MXR 117 Flanger
Ubiquitous Vibe	Shin-ei Uni-Vibe®
Rotary	Leslie® 145

PITCH/FILTER	
モデル	ベースとしたもの*
Bass Octaver	EBS [®] OctaBass
Growler Synth	Line 6オリジナル
Pitch Harmony	Line 6オリジナル
Pitch Shift	Line 6オリジナル
Tycoctavia Fuzz	Tycobrahe [®] Octavia
Synth String	Line 6オリジナル

* 本ドキュメントに記載されているすべての製品名は、各社が所有する商標であり、Yamaha Guitar GroupまたはLine 6との関連や提携関係はありません。ここに記載されている製品名、情報及びイメージは、Line 6のサウンドモデルの開発中に研究した特定の製品を明らかにする事を唯一の目的としています。EBSはEBS Holdingの登録商標です。FenderはFender Musical Instruments Corpの登録商標です。LeslieはSuzuki Musical Instrument Manufacturing Co. Ltdの登録商標です。MaestroはGibson Guitar Corpの登録商標です。MXR及びUni-VibeはDunlop Manufacturing, Incの登録商標です。TycobraheはKurt Stierの登録商標です。

リバーブをバイパスする／有効にする

1. REVERBボタンを押してリバーブを有効にします。
2. スイッチを再び押すと、リバーブがオフになります。
3. REVERBボタンを約2秒間長押しして、リバーブ選択モードに入ります。SELECTORエンコーダーのLEDリングが薄暗くなり、6つの異なるリバーブをSELECTORでスクロールできるようになります。

REVERBボタンを再び押すと選択モードが終了します。CH AまたはBを長押しして、リバーブの設定を忘れずに保存してください。

REVERB	
モデル	ベースとしたもの
Hot Spring	Line 6オリジナル
Hall	Line 6オリジナル
Chamber	Line 6オリジナル
Plate	Line 6オリジナル
Ganymede	Line 6オリジナル
Plateaux	Line 6オリジナル

チューナーを起動させる

CATALYSTには、EFFECT、TAPとREVERBの上のLEDを利用する、シンプルなチューナーが含まれています。チューナーが起動すると、スピーカー、DIRECT OUTおよびPHONES端子はミュートされます。

1. TAPを長押しします。3つのLEDが点灯し、左から右に点滅します。
2. 音のチューニングが合っている場合、TAPLEDは白く点灯し、EFFECTとREVERB LEDは緑で点灯します。
3. 音がフラットの場合、EFFECTLEDは赤で点灯しますがチューニングを合わせていくと緑になります。
4. 音がシャープの場合、REVERBLEDは赤で点灯しますがチューニングを合わせていくと緑になります。
5. TAP以外のいずれかのボタンを押すと、チューナーを終了します。

追加のパワーユーザー機能

ノイズ・ゲート - ノイズ・ゲートを起動する場合は、BOOSTボタンを押したままBOOSTノブを回します。

- 9:00～12:00時の位置からノイズ・ゲートはバイパスされます。12:00時の位置を超えると、ノイズ・ゲートは有効になります。

エフェクト・プリ／ポスト位置 - CATALYSTアンプを使用すると、エフェクトおよびリバーブ「Pre」(アンプ・ボイスングの前)または「Post」(アンプ・ボイスングの後)の位置をカスタマイズすることができます。


トーンを補正するエフェクト(ディストーション、ピッチシフターやフィルターなど)は通常「Pre」に配置すると最適に機能します。タイムベースのエフェクト(モジュレーション・エフェクト、ディレイおよびリバーブなど)は通常「Post」に配置すると上手く機能する傾向があります。

- 適切なエフェクト・タイプを選択した後、EFFECTボタンを押したままEFFECTノブを回します。
- 12:00時の位置より下の設定から、エフェクトは「Pre」(アンプ・ボイスングの前)に配置されます。12:00時のノブの位置を超えると、エフェクトは「Post」(アンプ・ボイスングの後)に配置されます。
- リバーブを有効にした後、REVERBボタンを押したままREVERBノブを回します。

- ・ 12:00時の位置より下の設定から、リバーブは「Pre」(アンプ・ボイシングの前)に配置されます。12:00時のノブの位置を超えると、リバーブは「Post」(アンプ・ボイシングの後)に配置されます。

ファクトリー・リセット


CATALYSTアンプを工場出荷時の設定に戻したい場合は、以下の手順に従ってください。

1. CATALYST Editソフトウェアの中にある、Backup/Restore機能を最初に使用して、カスタム・サウンドと設定のバックアップを作成することを強くお勧めします。
2. CATALYST Editを終了し、コンピュータに接続したアンプを外します。
 次の手順でアンプのサウンド、エフェクトなどに加えた全ての編集内容を消去します。バックアップは作成してありますね？
3. CATALYSTのフロントパネルのCH BとMANUALボタンを押しながら、アンプの電源を入れます

CATALYSTファームウェア・アップデート

CATALYSTアンプでは、常に最新のデバイス・ファームウェアを使用することを強くお勧めします。ファームウェア・アップデートは、macOSおよびWindowsコンピュータのLine 6 Updaterアプリを介して入手可能です (line6.com/softwareから無料)。

ファームウェアアップデートを実行する場合、保存されたプリセットは上書きされません。CATALYSTのファクトリプリセットを更新するには、更新後に前のセクションで概説したようにファクトリリセットを実行します。

 **注記:** AndroidデバイスのUSBのHostモード・サポートとは互換性がないため、ファームウェア・アップデートはmacOSまたはWindowsコンピュータを使用して行なう必要があります。

CATALYSTでMIDIコントローラーを使用する

必要に応じて、MIDIコントローラーを使用することでCATALYSTアンプの用途を更に広げることができます。パラメーターを含め、全てのアンプ・ボイシングとエフェクトを完全なハンズフリーでリモート・コントロールすることができます。コントロール可能な機能のリストについては、以下のMIDI実装表を参照してください。

1. 最初にMIDIコントローラーをCATALYST 100または200のMIDI IN端子に接続します (またはコンピュータからUSBを介してCATALYST 60、100または200にMIDIを送信します)。MIDIチャンネル1で送信するようにMIDIコントローラーを設定します。
2. MIDIエクスペリションペダルを使用して音量をコントロールする場合、CATALYST Editソフトウェアを介して「Volume」ブロックの位置を「Pre」(アンプブロックの前)または「Post」(アンプブロックの後)のどちらかに割り当てることができます。フロントパネルのUIから割り当てすることはできません。CATALYST Editソフトウェアを介して割り当てることが可能であり、その割り当ては各サウンド内に保存されます。

MIDI実装表

MIDIメッセージ	値/範囲	機能	説明
MIDI CC 4	0~127	エクスプレッション	エクスプレッションの値をコントロール(エクスプレッションは、CATALYST Editを使用して任意のパラメーターにマッピング可能)
MIDI CC 5	0~5	アンプ・ボイシング・タイプ	アンプ・ボイシング1~6を選択
MIDI CC 6	0~63=オフ; 64~127=オン	ボリューム・ペダル・バイパス/有効	ボリューム・ペダルのバイパス状態をコントロール
MIDI CC 7	0~127	Volume Pedal Level	ボリューム・ペダルの位置をコントロール
MIDI CC 13	0~127	Gain	実機のノブと一致
MIDI CC 14	0~127	Bass	実機のノブと一致
MIDI CC 15	0~127	Mid	実機のノブと一致
MIDI CC 16	0~127	Treble	実機のノブと一致
MIDI CC 17	0~127	Ch Vol	実機のノブと一致
MIDI CC 18	0~127	Reverb Amount	実機のノブと一致
MIDI CC 19	0~2	Effect Type	エフェクト・タイプを選択(Delay, Modulation, Pitch/Filter)
MIDI CC 21	0~127	Presence	実機のノブと一致
MIDI CC 22	0~63=オフ; 64~127=オン	Gate Bypass/Enable	ゲートのバイパス状態をコントロール
MIDI CC 23	0~31=-96dB, 32= 96dB~127=0dB	Gate Threshold	ゲートのスレッシュホールドをコントロール
MIDI CC 24	0=.1ms; 127= 3000 ms	Gate Decay	ゲートのディケイ・タイムをコントロール
MIDI CC 25	0~63=オフ; 64~127=オン	Boost Bypass/Enable	BOOST機能のバイパス状態をコントロール(ボタンの動作と一致)
MIDI CC 26	0~127	Boost Level	実機のノブと一致
MIDI CC 28	0~63=オフ; 64~127=オン	エフェクト・バイパス/有効	エフェクトのバイパス状態をコントロール(ボタンの動作とは一致しません)
MIDI CC 29	0~63=オフ; 64~127=オン	リバーブ・バイパス/有効	リバーブのバイパス状態をコントロール
MIDI CC 34	0~127	エフェクトの量	実機のノブと一致
MIDI CC 37	0~5	リバーブ・タイプ	リバーブ・タイプ1~6を選択
MIDI CC 41	0~63=プリ; 64~127=ポスト	Reverb Pre/Post	リバーブの位置をコントロール: アンプ・ボイシングの前(Pre)または後(Post)
MIDI CC 43	0~63=オフ; 64~127=オン	Expression Bypass/Enable	エクスプレッションのバイパス状態をコントロール
MIDI CC 47	0~63=プリ; 64~127=ポスト	Volume Pedal Pre/Post Amp	ボリューム・ペダルの位置をコントロール: アンプ・ボイシングの前(Pre)または後(Post)
MIDI CC 58	0~5	Modulation Type	モジュレーション・エフェクト1~6を選択
MIDI CC 64	64~127=タップ 1 回	タップテンポ	1 回押すたびにTAPボタンを押す動作をシミュレート
MIDI CC 70	0~14	DIRECT OUT Mic Select	マイク・タイプ1~15を選択(XLR DIRECT OUT, PHONES, USB出力利用)
MIDI CC 71	0~2	Cabinet Select	スピーカー・キャビネット1~3を選択(XLR DIRECT OUT, PHONES, USB出力利用)
MIDI CC 74	0~63=プリ; 64~127=ポスト	Effect Pre/Post Amp	エフェクトの位置をアンプ・ボイシングの前(Pre)または後(Post)にコントロール
MIDI CC 88	0~5	Delay Type	ディレイ・エフェクト1~6を選択
MIDI CC 103	0~5	Pitch/Filter Type	Pitch/Filterエフェクト1~6を選択
MIDI CC 107	0~63=オフ; 64~127=オン	FX Loop Bypass/Enable	エフェクト・ループをオン/オフに切り替え(端子での検出にかかわらず)

メモリー・ローディング

MIDIプログラムチェンジ(PC)メッセージは、CATALYSTアンプのManualモードとその1 2チャンネルAおよびBサウンドの読み込みに使用することができます。

プログラム番号	機能
0	アンプをManualモードに設定
1	バンク1、チャンネルAサウンドの読み込み
2	バンク1、チャンネルBサウンドの読み込み
3	バンク2、チャンネルAサウンドの読み込み
4	バンク2、チャンネルBサウンドの読み込み
5	バンク3、チャンネルAサウンドの読み込み
6	バンク3、チャンネルBサウンドの読み込み
7	バンク4、チャンネルAサウンドの読み込み
8	バンク4、チャンネルBサウンドの読み込み
9	バンク5、チャンネルAサウンドの読み込み
10	バンク5、チャンネルBサウンドの読み込み
11	バンク6、チャンネルAサウンドの読み込み
12	バンク6、チャンネルBサウンドの読み込み

ご購入お取扱いに関するお問い合わせ窓口

Line 6インフォメーションセンター

ナビダイヤル(全国共通番号)

TEL 0570-062-808

上記番号でつながらない場合は03-5488-5472におかけください。

受付時間 月曜～金曜 11:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

メールでのお問い合わせ

修理に関するお問い合わせ窓口

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通番号)

TEL 0570-012-808

上記番号でつながらない場合は053-460-4830におかけください。

受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

メールでのお問い合わせ

輸入発売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

LM営業部 ギター営業推進課

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL 03-5488-6195

© 2022 Yamaha Guitar Group, Inc. 全著作権所有。

Line 6、Line 6ロゴ、CATALYST、Helix、HX Stomp、POD Go及びLFS2は米国及び他の国々で登録されたYamaha Guitar Group, Inc.の商標です。Apple、iPhone、iPod、LightningとMacは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。Appleは、この機器操作または、安全規制規準に関する一切の責任を負いません。iOSは米国および他の国々で登録されたCiscoの商標です。AndroidはGoogle LLCの商標です。Windowsは米国および他の国々で登録されたMicrosoft Corp.の商標です。

シリアル番号: _____